高島平GREEN TALK 第２回　公式レポート

#2

2025年12月

1. 概要

第2回では、高島平キッチンカーコミュニティ（今後、高島平キッチンカーカルチャー倶楽部に変更）を主宰する高木さんをゲストに迎え、キッチンカーを起点とした「食×コミュニティ×カルチャー」の実践についてお話を伺いました。子ども食堂や親子料理教室、畑と連動した循環型の取り組み、災害時の相互扶助につながる関係づくりまで、多角的な視点で語って頂きました。
小雨が降る中、高木さんの思いのこもった発信から、今後の地域連携や公民連携の可能性を確認する回となりました。

2.当日のトーク概要

トークでは、飲食店の少ない住宅地にキッチンカーで「食を運ぶ」ことが、人の滞在や会話、回遊性を生み出すこと、そしてその思いに賛同された約40台のキッチンカーによる緩やかなコミュニティが地域に賑わいと関係性をもたらしていることが紹介されました。

こうした活動は、現在子ども食堂の取り組みにも広がり、校区単位で社会福祉協議会と連携、半年で6拠点へと展開するほど広がりました。食事提供に加え、地域の先生によるワークショップなどを合わせて実施することで、地域の信頼や力をはぐくむ場につながっています。

さらに、高島平緑地で始まった畑の取り組みは、収穫から調理•提供までの循環体験にすることで、子どもの主体性や自立を高める事に繋がり、コミュニティの面からも、顔の見える関係が災害時の相互扶助につながるという視点も共有されました。

高島平緑地の夜は、暗くて怖いという声がある中でも、
今回の夜間イベントは、子ども連れ家族が安心して参加できる体験設計が重ねられたことについて、このような場が更に広がれば良いといったお話もありました。
社会実験の運営者と高木さんたち地域の方が一緒に運営の工夫についても、言及があり「収益も大切だが、心のゆとりと顧客目線を大切にする」運営が、持続性を支えていくことも語られました。

3. 参加者（＝住民）からの主な提案（カテゴリ別）

・キッチンカーが場の滞在時間と空気感を大きく変えている
・焚き火•ドッグラン•畑との相乗効果が高い
・「できる時に、できる人が、できることをやる」
　という実践姿勢は、学生などの学びとして価値が高い
・子ども連れの行動特性を前提にした設計が、
　地域イベントの鍵になる（日曜夜より土曜日午前中など）
・多世代交流が生まれるような工夫をもっとした方が良い
　（特にシニア世代が自然と関われる取組みなど）
といった声が共有されました。

4. 参加者の声に対して

- キッチンカーの効果について
  高木さんからは、キッチンカーは販売目的だけでなく、人が立ち止まり「居て良い」と感じられる空気をつくるために、意図的に配置しているとの説明がありました。

- 焚き火•畑などとの相乗効果について
  それぞれ異なる役割の組み合わせによって、新たな意味を持つとの考えが共有されました。複数の体験が重なることで、日常に近い居場所が生まれると言った話も出ました。

- 「できる人が、できることをやる」という実践姿勢について
  淑徳大学の永井先生からは、完璧な計画より行動を重視する姿勢が、学生や若者にとって現実的で価値ある学びになるとの評価が示されました。

- 子ども連れを前提にした設計について
  子ども連れの行動特性を踏まえた設計は、活動を継続するうえで不可欠であるとの共通認識が形成されました。開催時間や飲食の提供の仕方、安全な導線、気持ちよく滞在できる環境整備など、継続のために必要な要素が整理されました。

5. 今後の進め方

現場の臨場感と実践知が印象に残る会の中で、今後について以下の提案が示されました。

- コミュニティ運営をする際の理念と指標
- 天候状態を踏まえた運営や安全基準
- 子ども食堂や文化活動との連携イメージ
- 多世代交流や居場所にするための工夫
- 民間事業者などとの公民連携の役割分担

上記については、今後の社会実験や日常の運営に取り入れて、より良いものにしていくことが期待されました。

6. 総括

第2回の高島平GREENTALKは、「食を起点に、人と人の関係が編まれていくプロセス」を、実践者の高木さんの言葉と皆様のお声から立体的に感じ取れる回となりました。高島平という日常のまちのなかで、無理なく、しかし確実に育っていくコミュニティの姿は、今後の地域づくりに多くの示唆を与えてくれます。高島平GREEN　TALKは、今後も実践者との対話を通じて、地域の日常から未来を描く場として継続していきたいと考えています。